

事務事業名	ふれあいスポーツ広場開催事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
施策名	21	生涯学習の推進				所属係	スポーツ振興班	課長名	野本立一
基本事業名	77	学習・スポーツの啓発				担当者名	濱田祐史	電話番号 (内線)	248-5555 1504
予算科目	会計 01	款 10	項 06	目 01	事業	法令根拠			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 平成14 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の概要) ・体育指導委員(毎回5名)を中心に行うニュースポーツ教室で毎月第1、第3土曜日午前中2時間、老若男女問わず無料で自由参加できる。 (事業の内容) ・毎月の体育指導委員会議で出面(5名)職員1名を決める、土曜日の9時30分ころから準備を行う、受付を行う、参加者にニュースポーツの指導などを行う、12時をめぐりに終了して片付ける、参加回数が10回になった参加者に賞品を渡す、体育指導委員の費用弁償の処理をする (予算の内訳) ・報償費(大会賞品・参加賞)、費用弁償(体育指導委員)						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)	0
							人件費	トータルコスト(A)+(B)	0
							人件費		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・体育指導委員の主導により、ヴィーブルのサブアリーナにてニュースポーツ教室を開催した。1年間で約800名の参加があった。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・18年度に同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・合志市住民、合志市内企業に勤める

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・さまざまなニュースポーツのルールや技法を習得することができる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる。

施設や学習内容を知ることができる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 実施回数	回
イ 実施場所	箇所
ウ 会場規模	m ²

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア ニュースポーツのルールや技法を習得できたと思った参加者の割合	%
イ ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 取り組んでいないが今後取組んでみたいと思う市民の割合	%
イ ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円			193	264	264	264	264
	事業費計 (A)		千円	0	0	193	264	264	264	264	
	人件費	正規職員従事人数	人			3	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時間			35	35	35	35	35	
		人件費計 (B)	千円	0	0	139	139	139	139	139	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	332	403	403	403	403	
活動指標		ア	回数			16	24	24	24	24	
		イ	箇所			1	1	1	1	1	
		ウ	m ²			723	723	723	723	723	
対象指標		ア	人			53303	53909	54518	55124	55732	
		イ									
成果指標		ア	%			未把握	0.093	0.095	0.097	0.099	
		イ									
上位成果指標		ア	%								
		イ									

事務事業名	ふれあいスポーツ広場開催事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ・平成12年スポーツ振興基本計画の制定により体育指導委員協議会でスポーツの普及の必要性和方法を検討した結果、スポーツ未実施者の掘起こし、住民間のニュースポーツによる交流を目的に、平成14年度から開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
 ・当初は参加者も少なかったが、ポスター、広報、人づてに認知度もあがり年々参加者も増加傾向にある。また、近年は学校のクラスレクリエーションや地域のレクリエーション大会などへも活用のひろがりを見せている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・地域の体育委員や、PTA委員に選ばれた人たちが、地区やクラスでのレクリエーション大会を開催する時の種目選定、ルールの習得にこられ評価を得ている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ・意図のさまざまなニュースポーツのルールや技法を習得することにより、結果の学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる。施設や学習内容を知ることができるに結びつく。 ・さまざまなニュースポーツのルールや技法を習得することにより、結果の学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる。施設や学習内容を知ることができるに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 体育指導委員の自主的な活動をサポートし、ニュースポーツを普及することで、個人や地区でのスポーツ活動の推進、更には市民の健康や生甲斐作り、仲間づくりに寄与している事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ・PR方法の充実により成果向上の余地がある。 ・参加者の多くが高齢者であるため、交通手段等の関係で市内東部の住民の参加に偏っている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ ・年間800人を超える参加者が活動の場を失う。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ・類似の事業が無い
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・最少人数で対応している。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・職員は最少人数で対応している。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ・現在、無料で実施している。自由参加なので公平・公正であると考えられる。もし、有料化し参加者の減になれば意図と結びつかなくなる。

合志市

事務事業名	ふれあいスポーツ広場開催事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

- ・とても良い事業と考えているが、まだまだ周知されていない。PRに努め、内容共に工夫を重ねていく必要がある。
- ・参加者が市内東部の住民に偏りがちなので、開催場所の選定の検討の必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
- ・PRに努め、内容共に工夫を重ねていく必要がある。
- ・開催場所を市内西部にも設ける(市内2箇所)という方法もある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

- ・周知の方法、体育指導委員の協力体制、新種目の開拓
- ・ニュースポーツ道具の2箇所での確保、2箇所で行う場合の事業費の拡大、現状の事業費で行う場合は開催日数を減少させる他ない。
- ・解決には、PR方法(例えば学校や老人会、PTA、社会福祉協議会等に協力してもらう)を改善し、参加者の中から簡単な指導ができるような人材を育成して体育指導委員が少数でも活動できるようにすることにより2箇所での開催も可能になる。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項